

平成27年3月27日(金)

老球の細道132号

## 目を覚ませ、そして行動せよ

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

毎月25日はバスケットボールの数少ない雑誌『月刊バスケットボール』の発売日である。わが息子たちが学生の頃楽しみにしていた『少年ジャンプ』の発売日と同じくらい楽しみな日である。

今月号(2015年5月号)に会津にも馴染みの深い大宮北高校の特集が掲載されていた。大宮北高校コーチの佐藤光壺先生とは20年前からの知り合いで、現日本バスケットボール協会でスポーツディレクター(あらゆるカテゴリーの日本代表の指導)をしているトステイン・ロイブルを私に紹介してくれた人物である。その後縁あって14年にもわたって会津に来てクリニックを行って来ている。

佐藤先生はどんな素材でも毎年強力なチームを築き上げている。トステインの評価ではファンダメンタル指導では日本一の高校コーチだという。だから、3年前にトステインが「レバンガ北海道」のヘッドコーチに就任した時、佐藤先生をアシスタントコーチに抜擢した。公立高校の先生がプロバスケットボールチームのコーチになるという異例のスタッフ人事になったのである。そして佐藤先生は見事にやりとげた。

雑誌を読みながらあの当時のことが脳裏をよぎった。トステインは、自分自身の人生の中で最大のチャレンジをしようと言っていた。経営難に陥り、あわや廃部かと思われた『レラカムイ北海道』のチーム再建を託され、新たに『レバンガ北海道』と名を変えたチームのヘッドコーチに就任した時である。ドイツに残っていれば、自分のプロチームもあり、家族もいて、将来はドイツのナショナルチームのヘッドコーチも夢ではない立場にありながら、安定を捨て自分の夢への挑戦を選択した。

トステインは「頭で考えたことよりも心で考えたことを優先する」という独特な哲学を持っている。だから、彼の行動は大胆で、エネルギッシュであり、誠実でもある。この時は、日本のバスケットボール界の古い体質を変え、今まで世話になった日本のバスケットボールのために何か役立ちたいという使命感のもとで大いなる決断をした。

当時を思い出す。JBLのリーグ開幕間近の練習オフの日に会津へクリックに来てくれた。札幌で地元実業団チーム「北海道宮田自動車」とプレシーズンマッチを行い、その日の夜飛行機で東京へ行き、翌朝一番の電車で会津へ来た。相変わらずのハードスケジュールであるが、いつもの通り、彼は一切疲れた様子、言葉は出さなかった。そして、いつものようにエネルギッシュにクリニックを行なった。「タフガイ」という言葉はトステインのためにある。私も見習いたい、せいぜいヤクルトの「タフマン」を飲んでその気になるだけである。なんとも情けない。

その時のクリニック開講式でのトステインのスピーチは衝撃であった。彼が今チャレンジしようとしている熱い思いがそのまま出ていた。

「大多数の人は自分の夢を持っているが、夢を見ているだけで終わってしまう。成功する人間は、いつまでも夢を見ているだけで満足しない。その夢を現実化するために目を覚まし、そして行動する。行動しないと何も始まらない」

さらにトステインは言う。

〈次ページへ〉

「人間は地球上で唯一、自分自身の人生をある日、180度完全に変えることのできる生物である。ただ自分で自分の生きる姿勢を変えるだけでいい」

そう、人は変わりうる存在である。

「考えが変われば行動が変わる。行動が変われば態度が変わる。態度が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人間が変わる」

そしてトステインはとどめををさした。

「もし、明日、何かを変えたいと思うなら、今日から何か違ったことを始めなくてはならない。日々をそれぞれに最高傑作の日にしなさい」

この時多くのチームが感じたことだろう。

「ありきたりのチームでいることから卒業しよう。“だめだ、できない”という言葉を直ちにやめよう。“どのようにしたらやれるか”その方法を模索して行動しよう」

クリニックの翌朝、トステインは朝6時の電車で大宮に向かった。翌日の大宮北高校で9時半からのクリニックのために。見送りに行って最後に見えた様子は電車の中でノートを開き、次なる準備に余念のない姿だった。タフである！